

津山工業高等専門学校	開講年度	令和02年度(2020年度)	授業科目	日本文化論
科目基礎情報				
科目番号	0109	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(情報システム系)	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書：なし（プリントを配布），参考書：『国語便覧』，『国語辞典』（どの出版社のものでも良い）			
担当教員	江原由美子			

到達目標

学習目的：

様々な文学作品の解釈・鑑賞を通して、視野を広げ、思考力を高める。
日本語・日本文学に関する教養を身に付け、日本文化に対する理解の深化をはかる。

到達目標

1. 様々な作品や文献を読み、多角的に物事を考える力、柔軟に発想する力を育む。

2. 日本語・日本文学に関する知識を増やす。

3. 日本文化について自らの意見や考えを持ち、それを自身の言葉で説明できるようになる。

◎ 4. 効果的な説明方法や手段を用いて、コミュニケーションを図ることができる。

ルーブリック

	優	良	可	不可
評価項目1	文学作品の内容や日本語の歴史について調査・考察を行い、その結果を説明することができる。	文学作品の内容や日本語の歴史について調査・考察を行い、その結果を述べることができる。	文学作品の内容や日本語の歴史について考察を行い、その結果を述べることができる。	文学作品の内容や日本語の歴史について、考察を行おうとしない。
評価項目2	代表的な日本文学作品について、概要を説明できる。	代表的な日本文学作品について、タイトル、作者名、成立時代、ジャンル等を答えられる。	代表的な日本文学作品について、タイトルや作者名を答えられる。	代表的な文学作品について知ろうとしない。
評価項目3	日本文化に関する自らの意見や考えを持ち、説得力のあることばで他者に説明できる。	日本文化に関する自らの意見や考えを持ち、他者に説明することができる。	日本文化に関する自らの意見や考えを持ち、他者に説明する努力をすることができる。	日本文化に関する自らの意見や考えを持とうとしない。
評価項目4	臨機応変に方法や手段を選択し、より良いコミュニケーションを行うことができる。	的確な方法や手段を考え、円滑なコミュニケーションを行うことができる。	適切な方法や手段を考え、コミュニケーションを行う努力をすることができる。	効果的なコミュニケーションについて考えない。また、コミュニケーションを行おうとしない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：国語 必修・必履修・履修選択・選択の別：履修選択 基礎となる学問分野：人文学／文学／日本文学、人文学／言語学／日本語学 学習・教育目標との関連：本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（B）地球的視野に立った人間性の育成、B-2：地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し、説明できること」であるが、付随的には、「B-1」「B-3」「D-3」「F-1」「F-2」にも関与する。 授業の概要：文学作品や言語資料を読み、各時代の日本語・日本文学について概観する。また、そこに見られることはの変化に着目し、背景にある日本文化の様相について考察する。
	授業の方法： 各時代の文学作品や言語資料を読み、日本語・日本文学史の講義を行う。時代や内容ごとにテーマを設定し、課題提出物やレポートを課す。 成績評価方法： ・成績は、課題提出物（50%）+最終レポート（50%）により評価する。 ・定期試験は実施しない。
授業の進め方・方法	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：積極的に授業に参加し、自身の表現力を高める努力をすること。常日頃から様々な文章に触れ、柔軟に思考する練習をすると共に、日本語・日本文学に関する知識を増やす努力をすること。 基礎科目：国語Ⅰ（1年）、国語Ⅱ（2）、国語Ⅲ（3） 関連科目：国語Ⅳ（4年）、異文化社会論Ⅰ（4） 受講上のアドバイス： ・授業開始時刻に遅れた場合、20分までは遅刻、それ以降は欠課として扱う。 ・授業に積極的に参加し、期限を守って忘れずに課題を提出すること。 ・授業中に辞書を引く場合、携帯電話やスマートフォンの辞書を使用することは認めない。
注意点	授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
後期 3rdQ	1週	ガイダンス	授業内容・方法等について知る。
	2週	上代のことばと文学1	上代の代表的な文学作品について知る。
	3週	上代のことばと文学2	上代の日本語の概要について知る。
	4週	中古のことばと文学1	中古の代表的な文学作品について知る。
	5週	中古のことばと文学2	中古の日本語の概要について知る。
	6週	中世のことばと文学1	中世の代表的な文学作品について知る。

	7週	中世のことばと文学 2	中世の日本語の概要について知る。
	8週	(後期中間試験)	
4thQ	9週	近世のことばと文学 1	近世の代表的な文学作品について知る。
	10週	近世のことばと文学 2	近世の日本語の概要について知る。
	11週	近現代のことばと文学 1	近代の代表的な文学作品について知る。
	12週	近現代のことばと文学 2	現代の代表的な文学作品について知る。
	13週	近現代のことばと文学 3	現代の日本語の概要について知る。
	14週	日本語の変化と日本文化の様相	日本文学の流れや、日本語の歴史の大まかな流れをつかむ。
	15週	(後期末試験)	
	16週	まとめ	まとめを行い、日本語・日本文学や日本文化への理解を深める。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる 寛容さが必要であることを認識している。	3	
			様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
			異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0